

開成の杜

第99号 ●2015年12月18日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎ 024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人／学園長 関口 修



第69回もみじ会開場式



理事長・学園長
関口 修

真実の尊さ

世の中には、多種多様な嘘(ウソ)と真実が存在します。詐欺、偽造、虚偽等相手を誑かす行為は許されません。

学園に勤務していた女性が教育職員免許状を偽造、教員に成済ました事実が発覚し、多くの人に言いようのない苦痛と、大切な人生に傷を残す迷惑をかけた。

人間の行為には時間の経過を伴います。失われた時間は取り返しがつきません。この虚偽行為は、新聞・テレビ等が大々的に取り上げました。卒業生・保護者の皆様をはじめ、学生・生徒の皆さんに驚愕と御心配をおかけしました。これは私の不明によるもので、慎んでお詫びを申し上げます。今回の出来事は、我々に大きな教訓を残してくれました。

問題の女性は福島県立の高校に長らく勤務していたので、信用してしまつたこととでも、面接時に提出された書類を精査していれば、提出書類の虚偽を発見できたのであり、不注意の誹りは免れられません。人間は時折、ウソも方便

とも云われる嘘をつきます。許されるウソと許されない嘘には、常に相手があることなので、人間本来の確立が不可欠です。相手の人間性によつては、社会的には許されない行為でも、相手の生涯を思い不問にするような許容範囲もあり、複雑な要素も存在します。今回のように公的な真実を偽ることになれば、自分の生涯を失うことになるばかりではなく、自分の身内や信じてくれていた全ての他人を失うことになるでしょう。

我々人間は成長の過程で、嘘についてはいけません。親や学校の先生から幾度となく諭され、時には読書を通じても育まれています。

虚・嘘の反対語は実・真実であり、人々は真実を尊びますが、それでも、殆どの人々が何らかの理由で安易な嘘をつきます。

昨今、子どもたちの過ちを生み出す原因に、適切な表現能力が発揮出来ず、誤解を招く言葉使いがあります。この様な状況は、偏に子どもばかりではなく、大人の世界にも屡々見受けられるようです。偽りを知らずに、真実と思ひ込み、後に恥をかくこともあるのです。

将来、母親として、育児にあたるだろう学生・生徒の皆さんには、教養の本質を熟慮し、誤りのない判断が出来るようにと願ってやみません。(H27.12.1記)

新年度入学生から 家庭寮費大幅値下げ



本学園では、教育効果を高めるために設置している家庭寮費を平成28年4月1日から大幅に値下げいたします。

これにより家庭生活の実習を兼ねた生活調的集団生活の研究と、協

が可能になります。ただし、収容人数には限度がありますので、入寮は申し込み順とします。

※詳しくは家庭寮まで。
電話024・932・4973(直通)

郡山開成学園家庭寮 寮費等改定新旧対照表

単位:円

施設名	単 位	区 分	現 行	改訂後	増 減
1号館	年 額	入寮費	30,000	30,000	0
		寮 費	576,000	408,000	△168,000
		食 費	220,000	252,000	32,000
		合 計	826,000	690,000	△136,000
	月 額	寮 費	48,000	34,000	△14,000
		合 計	66,333	55,000	△11,333
2号館	年 額	入寮費	30,000	30,000	0
		寮 費	662,400	468,000	△194,400
		食 費	220,000	252,000	32,000
		合 計	912,400	750,000	△162,400
	月 額	寮 費	55,200	39,000	△16,200
		合 計	73,533	60,000	△13,533



アパートメント・ハウス様式の1号館は、各部屋が1つの「家」となります。当番制で行う食事作りは、調理実習も兼ねており、コミュニケーションを図りながら楽しく行うことが出来ます。食材は献立表に基づき各部屋に配布されます。



各フロアごとに洗面所等の生活ラインが設置されている2号館は、各部屋・各フロアごとの共同生活となっており、大学生・短大生・高校生が入寮しています。食堂でいただく食事のひとときは、楽しく集う場所となっています。

新ロゴマーク バッジ 「めばえ」を配布します

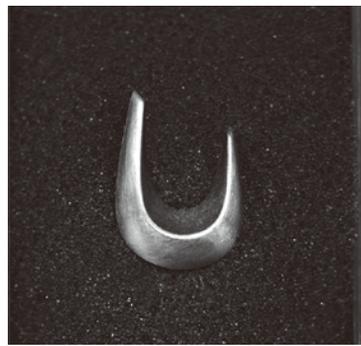
本年4月に、新しい学園ロゴマーク「めばえ」を発表いたしました。

このマークには、学園の歴史と伝統、新しい時代に向けた学園教育が芽を出して花を咲かせるようにとの思いが込められています。

発表に伴って「めばえ」のバッジ化を進めておりましたが、幾度の検討を重ねてこの度、完成に至りましたので皆様に配布いたします。

教育を取り巻く社会情勢が大きく変化する中、創立70周年を迎えようとする郡山開成学園の女性教育への想いを伝え、未来につながる象徴の一つとしてバッジ「めばえ」を着用ください。

学園長



「めばえ」バッジ

■運用

学生Ⅱドレスコード(服装規定)Aにバッジの着用を含める。

Ⅰ入学式、卒業式、始業式、オリエンテーション等で着用

教職員ⅡドレスコードAに準じる。(任意着用)

平成27年度 第2回教養講座 「池上彰 ニュースから未来が見える」

平成27年度第2回教養講座が10月27日、建学記念講堂で開催された。講師は東京工業大学教授でジャーナリストの池上彰氏。

池上氏は長野県松本市出身で慶応大学経済学部卒。NHKに記者として入局後「週刊こどもニュース」を担当し、分りやすい解説や切れ味鋭い取材力で人気を博し、数多くのメディアで活躍中。演題は「ニュースから未来が見える」。

池上氏は73カ国を取材。ベトナム、ミャンマー国民の勤勉さは驚異である。電車やバスなどの乗り物の中でも必ず本を読んでおり、若さや人件費の安さなどを考えれば将来は大いに成長が期待できる。日本の若者はスマホばかり見ており、今後は懸念



講師の池上彰氏

される。ユーロ圏の難民の問題、イランやイスラム国、TPP問題など、世界の動向に注目してほしいと語った。

卒業研究発表会

大学人間生活学科 福祉コースの第26回卒業研究発表会が10月30日、大学食物栄養学科の第47回卒業研究発表会が11月27日に、それぞれ行われた。

発表者は福祉コースが4名。食物栄養学科の38名が研究を重ねた内容を示し、持ち時間を一杯使って発表した。発表者と研究題名は次の通り。

【大学・人間生活学科 福祉コース】

- ▽福祉教育の実態と時代背景に対応したアプローチ 川嶋 里沙
- ▽障がい児を育てる保護者の意識および今後の課題 西間木 香里
- ▽特別支援学校の家庭教育に関する研究―福島県内特別支援学校(高等学校)教員対象調査結果から― 松本 海記
- ▽認知症の早期診断に繋ぐための要因に関する一考察 舞木 美咲
- ※人間生活学科 生活総合コース・建築デザインコースの発表会は、平成28年1月22日です。

【大学・食物栄養学科】

- ▽水溶性絹繊維プロインの細胞増殖能へ及ぼす影響 安瀬 英未/鈴木 佳奈恵
- ▽エゴマの利用に関する研究 伊藤 遥奈/佐々木 結美/榎井 真理
- ▽栄養のプロフェッショナル〜福島で活躍するスポーツ栄養士〜 高橋 瑞貴
- ▽女子高校生のスポーツと貧血について 五十嵐 成美/佐藤 菜摘
- ▽更年期障害と大豆イソフラボンについて 田中 映里/橋本 春香
- ▽更年期障害とビタミンEの効能について 大内 仁美/菊内 亜希美
- ▽小野町の生活習慣病の背景と食の環境に関する調査

鈴木 優香/星 和香/柳沼 佑花

伊藤 希/小坂 真里奈/高橋 容子/千葉 詩緒璃

▽ひまわりビス(食物繊維)がソーセージの品質に与える影響 情野 歩美/山口 桃未/高橋 知佳

▽福島県の郷土料理とその由来―人と地形と文化の及ぼす料理への影響― 寺田 朱里/鈴木 知美/塚田 星里奈

▽妊娠糖尿病に関する文献的研究―新しい診断基準について― 小原 美穂

▽学校給食の時間における学級担任の関わりについて 松浦 美咲/高木 真葵

▽食材の冷蔵保存に及ぼす電場の影響 吉田 奈穂子

▽東京電力福島第一原子力発電所以南の海浜生物の放射性核種 早坂 遥

▽女子高校生の運動習慣が肥満度と食生活に与える影響 柳田 優紀

▽スロージョギングと体幹トレーニングの生体指標に及ぼす効果 伊藤 薫/清野 春菜/高森 真恵

▽アロマが食事に関する気分等に及ぼす生理的・心理的影響の検討 根本 夏美/矢吹 知美

▽郡山市の子どもの食生活に関する実態調査 大場 美紅/長沼 美帆



卒業研究を発表する学生たち

第53回県高校新人ハンドボール選手権大会で2年連続優勝

県大会の決勝戦、チーム全員の想像を超えるほど良い試合だった。チームの武器である速攻で得点を重ねた。前半の10分で勝利を確信した。

「新チームの目標である『速くて早いハンドボール』を目指し、4強大会では県大会よりさらにレベルアップを図り、必ず優勝して東北大会の切符をつかみます」と、遠藤和主将が力強く意気込みを語った。

メンバー表		名前	学年
鈴木	咲希	2年	
佐藤	愛水	1年	
矢作	陽	1年	
湯田	帆乃夏	2年	
坂牧	朋奈	1年	
長谷川	舞	1年	
古川	春香	1年	
渡辺	美紅	1年	

メンバー表		名前	学年
佐藤	晴香	2年	
遠藤	和	2年	
吉田	百花	2年	
佐藤	友南	2年	
上野	玲奈	2年	
植田	成美	2年	
笠間	杏	2年	
本田	奏	2年	



2年連続優勝！目指せ全国大会

磐城一に惜敗

「春高バレー」県代表の座をかけた第68回全日本バレーボール選手権大会の決勝戦が11月22日行われた。2年ぶりの王座奪還に燃えた附属高校バレーボール部だったが、2・3のフルセットの末ライバル磐城一に敗れた。

▽準々決勝

郡山女子大附属2・0白河

▽準決勝

郡山女子大附属2・0磐城

▽決勝

郡山女子大附属2・3磐城一

平成28年度新役員決まる

【大学学友会】

- 会長 穂積春乃(食栄・2年)
- 副会長 佐々木美波(食栄・2年)
- 副会長 佐々木瞳(食栄・1年)
- 副会長 佐々木瞳(食栄・1年)
- 総務部長 國分奈津美(人生・2年)
- 書記 富塚郁実(人生・2年)
- 書記 赤羽七海(食栄・1年)
- 書記 安倍瑠莉(食栄・2年)
- 会計 鈴木彩音(食栄・1年)
- 会計 富田恵理(食栄・1年)
- 庶務 富田恵理(食栄・1年)
- 体育部長 金田翔子(食栄・1年)
- 文化部長 鈴木久絵(人生・2年)
- 厚生部長 福田嘉菜(食栄・2年)

【短期大学学友会】

- 会長 高橋末那(食物・1年)
- 副会長 真坂朱里(食物・1年)

【附属高校生徒会】

- 会長 長谷部秋穂(食物・1年)
- 副会長 佐藤南奈(幼教・1年)
- 書記 熊田萌華(食物・1年)
- 書記 小針千尋(食物・1年)
- 書記 佐々木夏美(幼教・1年)
- 書記 浅井美緒(幼教・1年)
- 庶務 佐藤祐紀(文化・1年)
- 体育部長 武田 唯(食物・1年)
- 文化部長 菅野美保(幼教・1年)
- 厚生部長 坂田 晴(幼教・1年)
- 会長 佐藤千桐(普通・2年)
- 副会長 藤沼あかね(普通・2年)
- 副会長 中山優花(普通・1年)
- 書記 星 美聡(食物・2年)
- 書記 渡部花梨(美術・1年)
- 書記 渡辺紗矢(普通・2年)
- 書記 吉田華澄(普通・1年)
- 会計 木幡真矢乃(食物・1年)

学びの旅

附属高等学校修学旅行

●素晴らしい日本の文化に触れて

とても楽しみにしていた修学旅行がやってきました。1日目は広島まで行き、フリーで宮島に行きました。潮が引いていて鳥居の近くまで行くことができました。厳島神社と夕日のコラボが素晴らしいです。

2日目は平和祈念公園を訪れ、皆で作った折り鶴を献納しました。戦争は悲惨で二度とほいけなないと思います。午後からは、大阪にあるUSJに行きました。雨の中で少し残念でしたが、楽しかったです。

念でしたが、人があまりいなくて乗り物にたくさん乗ることができました。

奈良・京都では古い日本の文化を見て感じてきました。東大寺の盧舎那仏を見ました。圧巻のスケールで驚きました。舞妓さんの踊りに魅了されました。

この旅行を通して日本の文化の美しさを感じ、貴重な経験ができました。改めて日本って凄いなと思いました。

(普通科 伊藤 あゆみ)

●芸術の秋

待ちに待った修学旅行。私たち音楽・美術科はこの5日間を通して、専門である「芸術」を感じる事ができました。

広島では被爆体験講話を聞き、平和について改めて考えさせられました。奈良・京都のお寺巡りでは、長い間美しさを保ち続けてきた建築物や仏像、彫刻、絵画等の歴史に圧倒されました。特に法隆寺ではテレビの撮影用のために仏像がライトアップ

プされており、貴重な経験ができました。また、京都コンサートホールでチエコ・フィルハーモニー弦楽三重奏団と笠原純子さんのコラボコンサートを聞くことができ、至福の時間を過ごすことができました。

最終日は浜松の楽器博物館を見学し、音楽の歴史に触れ、世界の楽器を見ることができました。5日間の体験をもとに、自分たちの芸術をより高め、成長できるように頑張ります。

(音楽科・美術科 三坂 成海)

●「京の食文化」に触れた旅

私たち食物科は修学旅行を通して京都の食に触れ、その食文化を学んできました。比叡山延暦寺では、精進料理を頂き、南禅寺では抹茶とおいしいお菓子を頂きました。万福寺では普茶料理を頂き、中国式の精進料理を学びました。初めて目にするめずらしい料理ばかりで、中でも紅しょうがの天ぷらには驚かされました。福寿園宇治工房では、抹茶をおいしく頂くための適切な温度を

教えて頂き、最高の玉露を飲んできました。京都の台所、錦市場には福島では見ないような食材が多く、色や形も個性的でした。祇園の料亭「美登幸」や、麩料理の「花咲萬治郎」で、京都の食材を生かした京料理を堪能してきました。京料理は、季節感や色彩感覚など料理に合った食材が使われており、学ぶことがたくさんありました。今回学んだことを、調理に繋げ、技術や知識を高めます。

(食物科 本多 珠梨)



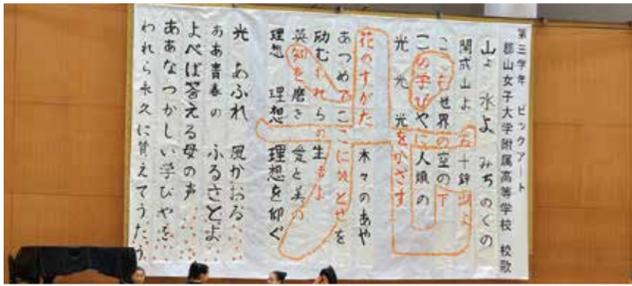
萬福寺で普茶料理をいただく



金閣寺にて



厳島神社にて



◆**附属高校**
 【第3学年】
 「ビッグアート」未来に虹をかけたよ
 う」
 校歌「こも世界の空の下」を一
 文字一文字心を込めて描いた。



【高校生徒会】
 ○新体操部
 「2015 美しく可憐に舞う」
 個人演技、団体演技、バレエやヒッ
 プホップなどの演技発表を行った。



【食物科】
 「どんぐり食堂の設置」
 集団調理実習の学習成果として
 開設。安心安全で心温まるサービス
 と美味しい食事を提供した。



○合唱部
 「もみじ演奏会」
 合唱コンクールに向けて積み重ね
 た練習の成果を発表。



短期大学部 生活芸術科2年
 渡邊 麻里奈 佐藤 睦美
 ポスター
 デザイン

「地域社会の復旧と創生をめざして」
第69回 もみじ会 華麗に開催される
 10月3日(土)・4日(日)

恒例のもみじ会が10月3日、4日の両日、同窓会や家族会の参加も得て全学的に開催された。来賓や家族、地域の方々4780人が来学され、本学園の総合的な姿を知ってもらうことができた。

◆**附属幼稚園**
 【幼稚園父母会】
 「子どもたちへのプレゼント」
 「ぼくたち わたしたちの作品展」
 子ども達一人ひとりが日頃の遊び
 の中で描いた絵や、色々な素材を使って
 工夫しながら製作した物を発表した。



「子どもバザー」父母会バザー」
 を開催した。



◆**郡山開成学園大運動会**
 一流そう爽やかな汗」
 大学・短大が
 一流そう爽やかな汗」
 大学・短大が
 一流そう爽やかな汗」

全高生が参加、力と技を競った。
 【未来に向かって】
 1位 教職員
 2位 2学年
 【希望を繋げ】
 1位 2年音楽美術
 2位 1年3組
 【部活動対抗リレー】
 ①学芸部
 1位 華道部
 2位 マーチングバンド部
 ②運動部

【網引き競技】
 1位 大・食栄4A
 2位 短・幼教2C
 【未来への変身】
 1位 短・文化1、専攻2
 2位 短・幼教1B

【サ★団結】
 1位 3年2組
 2位 3年食物
 【クラス対抗リレー】
 1位 1年2組
 2位 2年2組

網引き、どっちも頑張れ!

力と技の応酬の
 バレーボール(右)とドッジボール

童心にかえって

私が1等賞

◆**大学院**
 「人間生活学科」
 統一テーマ「生活を楽しむ空間・技
 術」
 ○生活総合コース「花をモチーフにし
 たファッションアイテム」

◆**大学院**
 「女子大生と女子高校生の結婚
 観・職業観の調査」
 女子大生、女子高校生を対象に、
 若い女性の結婚観、職業観、家庭観
 について調査・考察を行った。



○福祉コース、福祉現場における生
 活支援のあり方」
 ○建築デザインコース「世代を超え
 た集いよう 一つの家族空間」



【レストランもみじ】開設
 管理栄養士を目指す学生が、栄
 養バランスや季節感などを考慮しな
 がら献立を考え提供。



【食物栄養学科】
 「ミネラルと健康」
 ミネラルと健康の関わりについて
 考えた。

◆**短期大学部**
 【家政科・福祉情報専攻】
 「つなごう、ささえあいの心」
 福祉情報専攻の教育内容とボラ
 ンティア活動紹介、手芸教室、パソ
 コン教室、地元農産物販売などを開催。

【家政科・食物栄養専攻】
 「世界の麺と地域の麺文化」
 日本や福島県の麺文化の歴史、魅
 力を探り、麺文化の今後のあり方を
 考えた。

【幼児教育学科】
 「卒業研究発表と子どもの遊び」
 幼児教育学科の活動内容を発信
 するため、子どもの遊びについての紹
 介や玩具の展示、卒業研究などの活
 動の記録、絵本についての研究を発表。

模擬店「メイプルガーデン」
 元気な学生とおもてなしの心で
 料理の提供を行った。

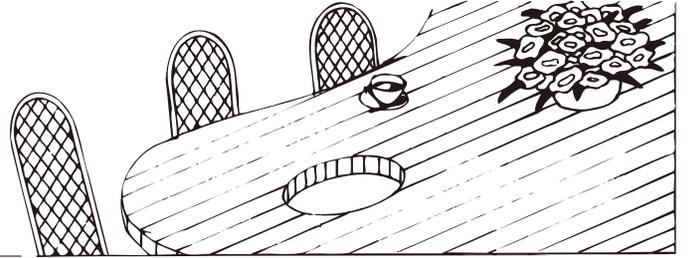
【生活芸術科】
 「もみじ演奏会」
 もみじ演奏会は全て学生の手
 により運営され、ピアノ、独唱、2台
 のピアノなどの演奏が行われた。

【音楽科】
 「もみじ演奏会」
 もみじ演奏会は全て学生の手
 により運営され、ピアノ、独唱、2台
 のピアノなどの演奏が行われた。

【文化学科】
 「ふくしまの歴史と文化を見直す」
 ふくしまの復興を「地域の文化」
 の面から考え、①言葉方言、②宗教、
 ③食、④郷土愛の4つをキーワードに
 展示や実演を通してふくしまに暮
 らす人々のコミュニティ再建や更なる
 発展の可能性を模索した。

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム



「子どもと過ごす時間」

郡司 尚子

私には三人の子どもがおり、毎日仕事と家事、子どもの行事等で慌ただしい日々を過ごしている。

最近はおウイン、クリスマス、バレンタインシーズンになると娘たちが、友達にお菓子を配るからと計画を立て始める。そんな娘に触発され、息子までもが作りたいと騒ぎ始め、最終的には60人分を超えるチョコやクッキー、マフィンなどを作ることになる。お菓子を配る数日前から自宅は、流れ作業で菓子作り、ラッピングを行い、作業場と化する。仕事を終え、夕食後に作業を始めるので、寝る時間が遅くなることもあるが、そんな子ども達と過ごす時間も幸せなひと時である。今仲良くしているお友達の話し、学校での出来事など、作

業をしながらだと自然と会話も弾む。普段は仕事で、休日でも部活や大会などで時間が合わず、3人の子とも達とゆつくり話す時間がなかなかとれないため、子ども達と一緒に過ごすお菓子作りの時間はとても貴重なコミュニケーションの場である。子供たちが大きくなればだんだんこのような機会も減ってくるので、忙しい中でも、子ども達と過ごす貴重な時間を大切にしていきたい。そして、もうすぐクリスマス。またお菓子作りの季節がやってくる。今年も思い出に残る素敵な時間になりたい。

(大学食物栄養学科 講師)



子ども達と作ったクリスマスケーキ

「共鳴する時間」

千葉 由佳子



筆者

練習ボックスの中に一人こもり、一区切りのメニューを終えて椅子に深く腰掛けると、ほかの部屋からいくつもの音が聞こえてきます。曲の仕上げに入ったら少しフォルテの和音だったり、今日から譜読みを始めたらしい少し不安げなタッチだったり。フルートやクラリネットの柔らかな旋律や、劇的な恋の言葉を連ねた歌声も。練習でヘトヘトになった体を一度、それらの音に包まれるように預けると、

また頑張れる気がしてきて練習を再開し、自分の音と向き合う世界に入っていく。そのような生活がこの大で始まりました。それは私にとって大変心強く、満ち足りた時をもたらしてくれるものとなりました。練習は孤独だけれども、やはり音楽は人と人の間に生まれるものであると日々感じています。音楽科の仲間、私にとっても大切なものです。彼女たちの音楽は、楽しい時には心を弾ませてくれます。悲しく辛い時には気持ちを抱き上げ、叱咤激励のよう背中を押してもらえます。ここへ来て、今までより一層、人の心に届く歌を歌いたいと強く感じるようになりました。私の中から音が引き出され、共鳴する時を過ごしています。

音楽は、前へ前へと、時の流れの中にあるものです。誰かの音楽が絶えず流れるこの場所は、時が止まることなく、前へ踏み出す力に満ちています。(短大音楽科1年)

「美味しい！ヘルシー！豆乳入りヘルシー！エッグベネディクト」

村上 明日香



筆者

私は幼い頃から「食」に対して興味がありました。ただ単に「食いしん坊」だっただけかも知れませんが、とにかく美味しいものを食べることは「幸せ」に繋がっているという感覚があったのだと思います。高校に進学することを考えた時、食について学ぶ事ができる附属高校を知り、迷わずに志望しました。高校で調理師としての資格を取得し、将来はどのような形で「食」に関係する仕事に就きたいと考えたからです。

食物科に入学してみると、学ぶ事が多すぎて大変でしたが、学年が進むにつれて、実習の時間も増え、充実した毎日を送ることができました。もともと好きな事だったので、どんなに大変でも苦になりませんでした。3年生になって、何となく自分の方向性が見えてきて、私は大学に進学して管理栄養士となって医療関係で働きたいと思うようになりました。そんな時、豆乳を使った料理のレシピを考える事になりました。

「存じの通り豆乳は今注目されている健康素材です。牛乳の代わりに使うことで低カロリーでヘルシーに仕上げる事ができます。病気をしている人にも優しく美味しい味で提供できると考えました。そしてその頃流行していたエッグベネディクトを豆乳で作ることを思いつきました。全国賞を頂けるとは思いませんでしたが、この賞を頂いた事を生かし、残り少ない高校生活とこれから先の大学生活を充実して送りたいと思います。(附属高校食物科3年)

私の本棚

郡山女子大学家政学部 食物栄養学科 准教授

亀田 明美

先日我が家の本棚を眺めてみた。青春時代を共に過ごした本から、最近購入したビジネス書まで、様々なジャンルの本が雑多に並んでいた。その一角に薄い本が数冊。そつと手に取りページを開くと、子供たちに読み聞かせをしていた頃のことを思い出した。

「いずみもりは、からすのまちでした。」で始まる「からすのパン

臨床心理士として、学生相談をしているので、私の研究室にはいろいろな学生が来ます。冬は恋に悩む学生が増加します。

よく相談に来るA子さんは、最近、女子力がアップしたと評判です。時々来る卒業生のB子先輩にも「かわいくなり

ましたね」とほめられてうれしそうです。何が違ってきたのでしょうか？

A子さんは「自分が違ってきたのは、ちゃんと自分のことを客観的に見られるようになったから」と言うのです。

「前は自分のことを見られなくて、面倒と思うと、しなければいけない事をさぼったり、どうでもいいやつて投げやりになって、そういう時って、すごくブスだったと思うんです。

に「美しい私を創る」という鏡があります。自分のことを過不足なくちゃんと見るようにしてください。それで女子力が違ってきます。試しに心がけてみてください。冬のイベントに間に合うように。

生活診断室

シリーズ 55

恋と客観性

郡山女子大学短期大学部 幼児教育学科 教授 富士盛 公年

よ。ところがまず、今の自分はどうなのかなって客観的に考えるようになったんです。そしたら、このままではよくない、自分はダメだって思い込んでるだけで、変わろうとしたいだけだったんだなと気がつきました」と、とても前向きです。確かに、それができると積極的になるし、自分を修正できるよ

うになります。客観的に見ることができるとい

うのは人目を気にするというのは違います。学校

に「美しい私を創る」という鏡があります。自分のことを過不足なく

ちゃんと見るようにしてください。それで女子力が違ってきます。試

しに心がけてみてください。冬のイベントに間に合うように。

ねて読んでいたのだろう。

作者の「かこさとし」さんは、この作品に大きな影響を与えたものとして、『モイセイエフ舞踊団』の

演目を挙げ、「そこに登場する、一人ひとりの人物の描写にひびく心を打たれた」と、あとがきに記している。個々の生きた人物描写と

全体への総合化の大事なることを、モイセイエフから学び、からすの

一羽に試みたのだと。

そんなこんなで、なぜか今でも「せつせこ せつせこ」働くからす

に共感を覚えるのである。

屋さん」は、子供たちのお気に入りのお絵本で、一晩に何度も読んで聞かせた。見開き一面に描かれていたパンを、一つ一つ指さしながら読む場面は、何とも幸せな時間であった。どのパンも質感が実にリアルで、「どうやって成型するのかしら」と思いを巡らせたほどであった。また、主人公のからすはもとより、取り巻きのからすたちまで、一羽一羽丁寧にイキイキと描かれている。当時は、「せつせこ せつせこ」、パン屋の切り盛りと子育てに忙しい夫婦の姿を、自分達の状況と重

會田教授が
厚生労働大臣表彰

短大・食物栄養専攻の會田久仁子教授が9月27日(日)、福岡県・福岡国際会議場で開催された平成27年度全国栄養改善・全国栄養士大会の席上、栄養士養成成功者として表彰された。

県高校剣道新人大会

▽団体 優勝
*6年ぶり4回目の優勝 東北大会へ

第20回県高校
新人放送コンテスト

▽アナウンス部門 佳作
宗形 美沙紀(高1)
*東北大会推薦
▽テレビキャンペーン部門
優秀賞 郡山女子大学附属高校
*東北大会推薦

第8回山形大学
高校生朗読コンクール

第1位 松本 みさと(高3)
第3位 上遠野 もも(高2)

第17回シヨパン
国際ピアノコンクール
inアジア新潟地区大会

▽高校生部門 銀賞
中谷 仁絵(高1)
*全国大会へ出場

2015食肉惣菜創作発表会
(ミートデリカコンテスト)

▽優秀賞 岩崎志緒理(高2)
「お肉がヘルシー!ピザ肉巻き!」
▽優秀賞 上島 沙季(高2)
「牛肉といくか人参」

第59回郡山市総合美術展

▽洋画の部
奨励賞 佐藤弥生(短・2年)

入選 阿部かな・佐藤未来
(短・1年) / 阿相和紗・安藤マ
リ・石井望遙・小田内エリカ・
冠木美音・坂本しの・鈴木舞優・
橋本成美・緑川千鶴(短・2年)

▽彫刻・工芸の部
美術賞 緑川千鶴(短・2年)

入選 石井望遙・遠藤綾華・
小倉春香・高橋紗羅・橋本成美
(短・2年)

▽写真の部
入選 宗形有紗(短・2年)

第70回東北高校卓球大会
第一次予選会(東北選抜台合)

▽福島県代表 金澤 綾花(高2)
菊田 茉菜(高1)
▽女子シングルの部
全国高校選抜大会出場
菊田 茉菜(高1)

東北高校選抜新体操大会

▽個人総合2位
▽クラブ 1位
▽リボン 2位
渡辺 柚芽理(高1)

黒沼講師が
岩手芸術祭で最高賞

第68回岩手芸術祭II彫刻部門で
短大・生芸の黒沼令講師が最高賞
となる芸術祭賞に輝いた。
受賞作品は寄木の技法で制作し
た木彫「うれう」で若い女性の不安
な表情を表現している。彫刻部門に
は15点の応募があった。

平成27年度 明るい選挙
啓発ポスターコンクール

▽1等 秋川 真里菜(高3)
(作品は全国審査会に出品された)

第10回西会津国際芸術村
公募展2015

▽準大賞 鼻戸 真綿(高3)
▽佳作 吉田 実生(高3)
▽佳作 鈴木 彩華(高3)

第36回牛乳・乳製品利用
料理コンクール

▽最優秀賞(知事賞)
遠藤 愛彩(短・食1)
「とろ〜り濃厚ポタージュ とま
ちーボール添え」



▲最優秀賞の
遠藤さん

県総合文化祭自然科学部門

▽最優秀賞
伊藤 紫音(高1)
浅倉 冴美(高3)
「人工イクラの合成とその膜の強度
の研究」
平成28年度全国総合文化祭出場
(広島県・8月)

第35回全国高校生
読書体験記コンクール県選考会

▽最優秀 阿部 絢己(高3)
「その先の幸福」
*全国コンクールに推薦
▽奨励賞 本田 奏(高2)

郡山市体育協会表彰

▽優秀チーム賞
郡山女子大学附属高校バレー
ボール部
▽優秀指導者賞
佐藤 浩明(監督)

第6回えむぞうくん
健康レシピ大賞

▽LEOC賞
井上 絵里香(短・食1年)

短・福祉情報専攻が
益金を届ける

第69回「もみじ会」で短大・福祉情
報専攻の学生らが県産のリンゴとブ
ドウを販売した。水沢美紀さんと宮
地涼香さんの2人が代表して益金3
9,430円を「被災者のために役立
ててほしい」と福島民報社郡山本社
へ届けた。



▲水沢さん(右)と宮地さん

赤い羽根共同募金で
135,447円の善意

大学・短大の学友会と附属高校
生徒会は、年末助け合いの一環とし
て今年も学内で募金活動を実施し、
135,447円の浄財を得た。
穂積春乃大学学友会会長・佐々
木美波同副会長の2人が郡山市社
会福祉協議会に寄託した。



▲穂積会長(右)と佐々木副会長

田んぼの学校で稲の収穫

家政科食物栄養専攻の学生は県
農業総合センター主催の「田んぼの
学校」に参加し、水稲の栽培作業を



▲稲刈りを体験する短大・食物の学生たち

「香ばしナッツ入りヘルシーおから
ロール」
短・福祉情報専攻が
益金を届ける
第69回「もみじ会」で短大・福祉情
報専攻の学生らが県産のリンゴとブ
ドウを販売した。水沢美紀さんと宮
地涼香さんの2人が代表して益金3
9,430円を「被災者のために役立
ててほしい」と福島民報社郡山本社
へ届けた。
体験しています。5月21日に時おり
小雨が降る中で植えた県オリジナル
のうるち米品種「天のつぶ」やもち用
品種「こがねもち」が順調に生育し
て収穫時期を迎えました。10月5日
には、秋晴れの下、5月に植えた水稲
を収穫しました(学生・教員25名
参加)。研究員の指導に従って、鎌を
使って手で稲を刈りとり、稲わらで
束ねて「はせ掛け」作業を行いました。
農作業で汗を流した後は、青空
の下、農業センターの敷地内で、芋煮
会を行い、自然の恵みに感謝しまし
た。今後、第3回目の「田んぼの学
校」では、収穫したコメの食味検査実
習(試食会)を行う予定です。

先輩を訪ねて



佐久間 茜さん
平成18年度 大学食物栄養学科卒業

佐久間茜さんは、伊達郡国見町の
公立藤田総合病院で管理栄養士と
して勤務し、今年で8年目になりま
す。入院患者さんの栄養管理計画
書を作成したり、個々の状態に応じ
た食事療法の提案・提供・栄養相
談や、調理スタッフと連携し献立のチ
ェックなどを行っています。「栄養相
談や食事を通して患者さんの疾患
や検査値が改善されると嬉しくな
ります。食を通して人々の健康に携

楽しくおも掘り
附属幼稚園

震災後に中断していた畑での栽培
ですが、幼児教育学科と一緒にサツ
マイモ栽培を再開することが出
来ました。
6月に植えてから半年が経ち畑
一面に生い茂った葉っぱ。「葉っぱ、大
きいね!」「おいも、大きくなってるか
な?」「興味津々でおいも掘りをスタ
トさせました。「見て!こんなに大き
いよ!」「こっちは繋がってる!」後日
家庭寮さんで調理をしていたくださ
いしく食べることも出来ました。体全
体で感じた美味しさでした!



▲大喜びの園児

われることにやりがいを感じます
ね」。佐久間さんが仕事に誠実に向
き合っている姿が伝わってきます。
学生時代は学友会の仕事をして
いたという佐久間さん。「他学部の学
生や先生とも知り合えたり、貴重な
経験をさせていただき、視野が広が
りました」。充実した学生時代だっ
た、と当時を振り返って。また、「毎
日が勉強ですが、学んだことを理解
した上で患者さんにわかりやすく
伝え、寄り添っている管理栄養士
になつていきたい」とこれからの目
標を話してくれました。
最後に、先輩の皆さんに「悔いのな
い充実した学生生活を送ってほしい
と思います。そして、進みたい道に向
かって諦めることなく頑張ってくだ
さい!」、暖かいメッセージをいただき
ました。

第69回もみじ会協賛 第190回芸術鑑賞講座

喜多方市美術館主催、公募「ふるさとの風景展」受賞作品展が9月29日から10月4日まで、建学記念講堂ギャラリーで開催され、多くの見学者で賑わった。

喜多方市美術館は平成7年の開館以来、独自の運営で全国から作品を公募し今年で20回を数えている。今回は第1回から15回までの展



挨拶する喜多方市美術館後藤館長

第191回芸術鑑賞講座 イ・ムジチ合奏団演奏会

第191回芸術鑑賞講座は、イタリアの室内楽団イ・ムジチ合奏団をお迎えして10月23日、建学記念講堂で開催された。

ローマのサンタ・チェチーリア国立アカデミーの卒業生12名が集まって結成され、楽団としては指揮者を置かず、合議で音楽を作り上げる形式をとっている。ヴァイオリン6挺、ヴィオラ2挺、チェロ2挺、コントラバス1挺、チェンバロー1台で編成されており、第30回芸術鑑賞講座に続いて2度目の来学。



素晴らしい音色を奏でたイ・ムジチ合奏団

覧会で最優秀賞を受賞した、油彩画、日本画、版画など様々な分野の作品24点が展示された。



愛好者で賑わった会場

2015わかやま国体 ボウリング 成年女子団体(2人) 福島県勢最高位の2位!

2015年の国わかやま国体ボウリング成年女子団体に出場した大河内未来さん(大食1年)・鈴木英子さん(日立オートモティブシステムズ福島事務所)のペアが本県女子団体の最高位となる2位に輝いた。

二人は福島市のからしまボウルで練習、5年前からペアを組んでいる。予選を6位で通過、決勝での1、2、6ピンは全体で1位に！予選との合計スコアでわずか4ピン及ばず2位に。

大河内さんは個人予選で9位。あと一歩で決勝進出を逃しただけに成年女子2位の好成績に喜びを爆発させていた。将来は管理栄養士に！夢に向かって頑張れ、大河内さん。



2位に輝いた大河内さん

ワクワクの杜 「ミニロボをつくらう！」

科学実験教室「ミニロボをつくらう！」が郡山女子大学短期大学部ワクワクの杜主催(会長 賀門康博)で10月18日に本学で開催され、小学校4年生～6年生の24名がサッカーロボづくり(アイエイアイ社製)に挑戦した。当日は静岡県清水市からアイエイアイの技術者4名の他に、日本大学工学部・本学幼児教育学科の学生、本学教職員ら12名のスタッフが複雑なロボづくりをサポートした。109個のネジを使ってロボットを完成させた後、小学生は3人1組でチームをつくりドリブルやシュートができる高性能ロボットでサッカーゲームを楽しんだ。



サッカーゲームを楽しむ子どもたち

なお、「ミニロボをつくらう！」は国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成事業である。

豆乳レシピ。甲子園 おかず部門で日本一に！ 村上明日香さん

日本豆乳協会の第2回豆乳レシピ甲子園おかず部門で、高校食料科3年の村上明日香さんの考案した「豆乳入りヘルシーエッグベネディクト」が最優秀賞に輝いた。

豆乳を利用した創作料理の味や彩り、独創性を審査する大会で3部門に全国から1700品の応募があった。附属高校は参加校の中で最多の



豆乳入りヘルシーエッグベネディクト

優れた79点を出品し、今年から設けられた最優秀学校賞も受賞した。

知事主催の夕食会で 13カ国の大使を ハンドベルで歓迎 短大・幼児教育学科

本県の復興の現状視察に訪れたクウェートや南アフリカ、シンガポール、欧州連合代表部など13カ国の大使を招いた知事主催の歓迎夕食会が10月22日、ホテルハイツで行われた。席上、短大・幼児教育学科のハンドベルリガーズが、バッハの「主よ人の望みの喜びよ」、「ミッキーマウスマーチ」など6曲を披露した。大使たちはメンバーの心のこもった音色に感激していた。



美しいハンドベルの音色を披露

紙上美術展 78

「青磁 シルクロード絵皿」

三浦小平二



新潟県佐渡市出身。1955年東京芸術大学美術学部彫刻学科を卒業後、青磁の伝統技法を学ぶ。新日展や現代日本陶芸展での朝日新聞社賞をはじめ、数々の賞を受賞。東京芸術大学助教授、教授、名誉教授に就任し、紫綬褒章を受章した。この絵皿は故関口富左名誉学園長・名誉学長から学校法人郡山開成学園に寄贈され、風俗美術館1階に展示されている。

木もれ陽

霜月に雪を見て師走を迎えた。疾く過ぎゆく時間は、もうすぐ新しき年を連れてくる。

新年は、小倉百人一首カルタや宮中歌会始などが催され、日頃あまり触れることのない「和歌」に触れる機会がある。

「和歌」は、言霊思想の典型のようなもので、万葉の時代より和歌の詠み手の想いや祈りを現すものであった。

「言の葉」による祈りの象徴である「和歌」が隆盛を極めるのは、平安時代末期から鎌倉時代初期に編纂された『新古今和歌集』の頃である。時は源平の動乱期、おごれる平家の盛衰と世の無常が、もの悲しい琵琶の音に乗せて語られた時代である。

そんな中であって『新古今和歌集』の撰者であった藤原定家は「世の中は、平家の追討などと言っているがそんな事はどうでもいい事である」と、歌を詠み、古より伝わりし物語の写本に没頭する。この時に写された和歌集や『源氏物語』、『土佐日記』などの本が無ければ現代の日本古典文学は成り立たないといえよう。言わば定家は、言の葉による後世への祈りを優先させたのである。今、世界は不穏な空気に取り巻かれ、混乱の中、多くの人々の悲しみで満ちている。新しき年には「今日ふる雪のいやしけ吉事」ではないが、多くの人に幸多きことを祈らずにはいられない。(宏)